

平成30年度 性教育研修会 性に関する指導の実践事例
～豊里小学校における取組～

銚子市立豊里小学校

1 銚子市の概要

銚子市は関東平野の最東端に位置し、千葉県では千葉市に次いで2番目の市として誕生した。三方を水に囲まれ、利根川河口から君ヶ浜、犬吠埼、屏風ヶ浦に至る海岸線は、砂浜や岬、断崖絶壁と、変化に富んだ雄大な景観美を織りなしている。

主な産業としては、7年連続水揚げ量全国第1位を誇る銚子漁港をはじめ、キャベツやメロン、イチゴなどの栽培を行っている。



2 豊里小学校の紹介

本校は、銚子市の北西の端に位置し、校歌にも「流れゆたけき 利根のへに」と謳われるように、学区の北東部が利根川に面している。

豊里小学校校歌

一、のぼる朝日に たりはえて
光のどけき とよさとの
希望あふるる まなびやに
我らはつどい 学ぶなり

二、強く正しく おおらかに
きよき心を あわせつつ
平和日本をになわんと
我らはともに はげむなり

三、流れゆたけき 利根のへに
稲ほたわわに みりのりたる
幸にあふるる とよさとの
まなびやとわに 栄あれ

本学区は、利根川に沿った低地部にある富川・森戸・笹本・桜井・諸持・宮原の6地区と、南東部の台地にある豊里台の7地区からなっており、全体のおよそ4分の3が豊里台から通学している。

銚子市の人口が減少し、市内の大部分の小中学校の児童生徒数も減少する中、本校の在籍児童数は、豊里台に移り住む人の増加により増加あるいは横ばいの傾向にあった。しかし、近年は減少傾向に転じており、今年度は全学年が単学級の在籍児童数172名となった。

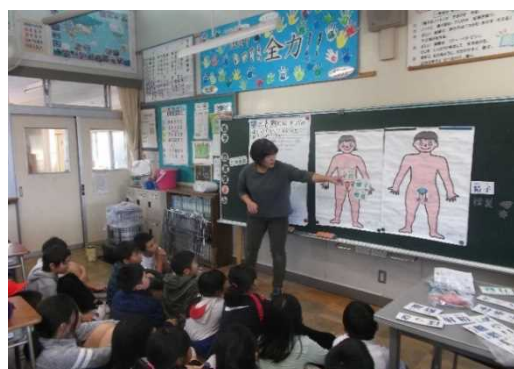
新しく豊里台地域に入ってくる人の割合が増えてきたため、人間関係の交流が疎遠な都市的傾向を示す場面も見られるが、学校に対して各家庭は大変協力的である。また、児童たちも恵まれた自然の中で生活し、全体的に明るく素直な性格である。

3 本校の取組について

(1) 保健学習(4年生)「育ちゆく体と私」

担任と養護教諭がTTでの授業を行った。

男女のからだの違いやからだに起こる変化について、使用する資料等を担任と養護教諭が相談し、難しい言葉をどう説明するか打ち合わせることで、複雑なからだの仕組みが理解しやすくなるよう工夫した。また、養護教諭の立場から専門的な話をする場面を設定することで、子どもたちの興味関心が高まり、授業に意欲的に参加する様子が見られた。



(2) 学級活動(4年)「命が生まれる」

本題材での指導を行うことになった経緯としては、本校に出産予定の職員がおり、少人数指導での授業の折に育っていく胎児の様子や母親である職員自身の話を聞かせていたことにあった。

そのたびに、同じように胎児の成長を喜び、職員の体調を気遣う児童の様子を伺うことができ、また、母親が間もなく出産予定という児童もいたため、職員の産前休暇を機に、命の授業を行うこととなった。(資料1)



①生まれるころの様子(手紙)

児童が生まれるころや生まれたころの様子を、保護者に書いていただいた。(資料2)

授業までの時間がない中での依頼であったが、どの家庭も快く引き受けてくださりとても心温まる手紙を書いていただいた。児童も、家族からの手紙を読んでとてもうれしそうに発表していたことが印象的であった。

②赤ちゃん人形

授業の前に全員に赤ちゃん人形を抱く体験をさせ、赤ちゃんの大きさや重さを実感できるようにした。

事前のアンケートで、実際に赤ちゃんを抱いたことがある児童は多く、優しく扱うことができていた。経験のない児童の中には、赤ちゃん人形の首や手足がグニャグニャと動くことにびっくりし、ぎこちなく抱く姿も見られたが、周囲の児童の手助けで上手に扱うことができていた。



③受精卵～胎児が大きくなる様子

黒画用紙に針の穴をあけたものを配付し、見えているものが赤ちゃんの始まり(受精卵)であることを告げると、児童は興味を持って画用紙を光に透かしたり、見入ったりする様子が見られた。

生まれてくるころの赤ちゃんの大きさが、約3kgであると知っている児童もいたが、命の始まりである受精卵の大きさとの違いに驚いた様子であった。



受精卵から出産直前までの様子をアニメーションで見ながら、胎児が大きくなるにつれてどんな変化があるのか、母親にはどんなことが起こるのかをゲストティーチャーに話していただいた。特に、つわりや胎動については初めて聞く児童も多く、ゲストティーチャーの話に熱心に聞き入っていた。

また、母親や周りの家族の心境の変化についても伝えることで、家族みんなで出産を楽しむに待っている様子を、自分が生まれるときと重ね合わせて感じられるようにした。

④妊婦体験

妊婦体験ジャケットを使用して、実生活で行うような動き（階段の昇降、起き上がり）を体験させた。

10kgの重りが入ったジャケットを着て歩いたり登ったり寝転がったりすることで、妊婦の大変さを実感し、自分の母親が大変な思いで10か月を過ごしていたことと、母親が安全に生活し出産を迎えるためには周りの家族の協力が不可欠であることを感じられるようにした。

児童からも、妊婦役の児童に自然と手を添えたり起き上がるのを助けてあげたりと、気遣う様子が見られた。



⑤赤ちゃんが生まれる様子

アニメーションで赤ちゃんが生まれてくる様子を説明し、赤ちゃんが生まれてくるときは、母親も赤ちゃんも大変な思いで力を合わせて生まれてくることを伝え、赤ちゃんは生きようとする力強さがあることを感じられるようにした。

ゲストティーチャーからも、もうすぐ生まれてくる命への思いを語っていただき、児童が自分たち自身も同じように家族に思われて生まれてきたことを感じられるようにした。また、自分だけでなく友達も同じように大切な命であることを伝え、自分の命も他人の命も大事にできることの大切さを伝えた。



⑥おうちの方への手紙

授業を通して、命が生まれることや自分の命について思ったことを家族への手紙としてまとめ、発表させた。(資料3)

(3) 集会活動 (いのちの集会)

いのちを大切にするキャンペーンの一環として、毎年7月に「いのちの集会」を行っている。

いのちを大切にするキャンペーンでは、あいさつ運動から始まり、道徳や理科、体育などの関連教科においても「命」を扱っている。また、集会では、命をつなぎ育む「性」と命を感じて考える「生」の両方をテーマとし、スローガン作成や特別支援コーディネーターによる講話、集会委員会による発表や読み聞かせなどを行った。



①スローガン作成

関連教科や道徳、学級活動などで、命が生まれるまでの過程や命が生まれるという奇跡、命をつなぐということ学んだあと、自分の命もまた奇跡であり、その命が今生きていることを感じさせ、自分だけでなく他の命も大切にしようという気持ちを育てるために、「命を大切にする」スローガンを作成した。

また、さらにその命をまた自分の子どもたちへつないでいくために、今ある命を大切にしようとする意識を高めることにつなげ、「いのちの集会」で発表することでそれぞれの学級の決意表明としている。



②特別支援コーディネーターによる講話

命のつながり $\left\{ \begin{array}{l} \rightarrow \text{体のつながり (親や祖父母、ずっと昔からの絆で今のあなたがいる)} \\ \rightarrow \text{心のつながり (家族だけではなく、友達や先生、地域の人との心の絆)} \end{array} \right.$

友達とのトラブルや学校生活などで困っていることは、心や体の『命の絆』が絡まった状態であり、そのような時には、学校にいる担任の先生のほかに悩み相談員の先生に話をすること、直接話をすることが難しいときは、相談箱に手紙を入れる方法もあることを紹介した。

児童からも、相談箱を設置してある場所や悩み相談員の先生方の名前が出るなど、広く周知されていることが確認できた。



③集会委員会の発表

日常の中で、どんなときに「生きている」と感じるか、どんなことがあると「生きている」のがつらいと感じるのか、集会委員会の児童が調べた結果を発表した。

楽しい、うれしいと感じた時「生きている」と感じることで、友達とけんかをしたりたたかれたり無視されたりなど、心や体が傷ついたときに「生きている」のがつらくなってしまうこと、つらい時にそばにだれかがいてくれることが心強いことなど発表した。



4 成果と今後の課題

「性」と「生」をテーマとし、教科、学級活動、集会活動を通して同じ視点で指導したことで、児童の興味関心を持続させ、もっと知りたい・調べたいという意欲を引き出すことができた。また、命が生まれることの奇跡を実感し、家族への感謝の心を表そうとする姿も見られた。さらに、その命を大切にし、自分だけでなく他人の命も大切にしようとする心が育ってきている。

今後は指導の場を広げ、家庭や地域と連携をしながら学年の発達段階に応じた指導を系統立てて行っていきたいと考えている。そして継続した指導が行えるよう、校内体制づくりや資料の作成に取り組んでいきたいと思う。

1 題材名 「命が生まれる」

2 目標

- 命が生まれるまでの母体の変化と、おなかの中の赤ちゃんの成長が理解できる。【知識・理解】
 ○自分が生まれてきたことの不思議さや、奇跡的な確率の中から生まれてきた自分の命を大切にしようとする気持ちをもつことができる。【興味・関心】

3 展開

時配	学習活動と内容	指導・支援	資料
5	1 赤ちゃん人形を抱き、抱っこしてみた感想や赤ちゃんが何 kg くらいで生まれてくるか発表する。 ・大きい ・重い ・ぐにゃぐにゃしている	(本時まで、全員が赤ちゃん人形を抱く体験を行っておく。) ○赤ちゃん人形を抱いた感じから、生まれてきたときの大きさを感じ取ることができるようにする。 ○命の始まりである受精卵の大きさを提示し、赤ちゃんとして生まれる前の様子について興味をもてるよう支援する。	赤ちゃん人形 受精卵の大きさ(サンプル)
	2 本時のめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">命はどのように生まれてくるのだろう</div>		
30	3 命が母親のおなかの中でどのように育っていくかを知る。 (1) パワーポイントの映像を見て、赤ちゃんが大きくなっていく様子を知る。 (2) 妊婦体験ジャケットを使用し、実際に生活で使うような動きを体験する。 (3) 赤ちゃんが生まれてくる様子を、パワーポイントの映像で確認する。	○命の始まりの目に見えない小さな細胞から、母親のおなかでどのように育っていくのかをパワーポイントの映像を使って視覚的に説明する。 ○ゲストティーチャーから、赤ちゃんが大きくなっていく時期にどのようなことを考えていたのか話していただき、親の思いや願いを感じながら理解ができるようにする。 ○普段何気なく行う動作でも、妊娠していると一つ一つの動作が大変であることが理解できるようにする。 ○赤ちゃんが生まれてくるときは、母親と赤ちゃんが力を合わせていることを伝え、生きようとする力強さがあることを感じとることができるようにする。 ◇命が生まれるまで、どのような変化が起きるのか理解できたか。(観察)	パワーポイント ゲストティーチャー 妊婦体験ジャケット パワーポイント
10	4 本時のまとめをする。 (1) ゲストティーチャーから、出産に向けての話を聞く。 (2) ワークシートに感想を書く。 (3) 感想を話し合う。	○出産予定のゲストティーチャーから、生まれてくる命への思いを聞くことで、自分たちの命も同じように生まれてきたことを感じ、自分のいのちの大切さがわかるように支援する。 ◇自分の命を大切にしようとする気持ちをもつことができたか。(ワークシート、発言)	ゲストティーチャー ワークシート

